

2014年10月～12月 聖徳大学生涯学習研究所平成26年度課題別研究 家族とともに地域に生きる要支援者・要介護者

～自身が認知症患者である活動家から学ぶ「人間としての意地」～

講師：北川邦彦(介護・認知症の家族と歩む会) インタビュアー：西村美東士(聖徳大学文学部)

主催：聖徳大学生涯学習研究所



講師

介護・認知症の家族と歩む会世話人代表
北川邦彦



出身校：明治大学
法学部法律学科
聖徳大学通信教育部
社会福祉学科
千葉県柏市在住

講師紹介

自ら認知症患者でありながら、たくさんの仲間に支えられ、まちづくりのリーダーとして活動している人です。彼は、「その人を一番知らないのは家族、しかも思い込みで判断している」、「介護者側の思い込みで、できないと決めつけている」と警鐘を鳴らし、「患者自身のできることを探し出そう」と訴えています。

趣旨

生涯学習とは、個人として充実するだけでなく、地域で人々が学び合い、支え合って、まちを作り出す活動でもあります。これを「生涯学習のまちづくり」と呼ぶことができます。要支援・要介護の人々も、もちろん、その仲間の一員といえます。

本研究では、この視点から、多くの認知症患者が施設や家族に囲い込まれて、外の地域や社会と関われない現実に向けます。要支援・要介護と認定されても、人間らしい生活をして、いろいろな人とおしゃべりをして、自己を表現し、家族や地域の一員として役割を果たしたいという「意地」（誇り）があるはずで、そして、要介護者と支援者は、互いに尊敬しあっているという面もあるのではないのでしょうか。

このような視点から、自他の尊厳を守ることでできる要支援者・要介護者自身の活動の仕方、支援・介護のあり方を明らかにします。



写真：認知症家族交流会の様子
(前方、北川・西村)

西村・北川の交信内容から

西村美東士より

認知症家族交流会に参加させていただき、ありがとうございました。以前は手もつながない夫婦だったのに、今は、介護する妻と、介護される夫が、手をつないで外出する。そのお二人のお顔を拝見して、夫婦がうまくいかない時代に、なんて幸せそうなんだと思いました。

北川邦彦さんの返事

先生、私が全力投球できる理由がわかっていただけました？ 認知症のご本人とご家族、この素敵な信頼関係、人間のすばらしさ、優しさ、強さ、なんといっても、生きることへの想い。こんな方々のお手伝いができる。こんな中途半端な私を信頼してくれている。こんな生き方ができる。冥利につきます。「いつまでも地域で輝いて、元気に住み続けましょう」は現実にできますね。

インタビュアー

聖徳大学文学部教授 西村美東士

インタビューダイアログ(質問式対話)によって、自身が認知症患者である講師のものの見方、考え方、地域を支える活動の方法を聞き出しながら、認知症患者が、学び合いや支え合いを通して、家族とともに地域や社会の主人公として生きる方法をまとめます。



日程

10月20日	公開講座「認知症患者個人からの出発」
10月27日	人との関わりの重要性 まわりからの言葉・表情・問いかけの方法
11月10日	社会の不合理的の存在 患者の社会への気持ちを訴える
11月17日	社会に貢献する認知症患者 「社会が必要としている自分」という認識
12月1日	認知症患者による活動の方法 個人の夢を実現する方法、さまざまな活動

全回月曜13:30～16:30 受講無料

会場・お申込み

聖徳大学生涯学習社会貢献センター
(聖徳大学10号館)5階教室

※10月6日の公開講座の会場については、下記生涯学習研究所までお問合せください。

お申込み先
聖徳大学生涯学習研究所
TEL:047-365-5691

松戸駅東口より出て左手
ガラス張りのビルが研究所です

